

2009年記録会は12月20日(日)HLGは松伏公園、PLGはグリーンパークです!

2010年記録会は1月17日(日)HLGは松伏公園、PLGはグリーンパークです!

今年も競技会シーズンたけなわですが、もう年末です。「老年期は人生最高のバカンス」との言葉がありますので、バカンスを過ごすには「ヒコーキ遊びそこ最高」と言われるように頑張りましょう。

FFの時代は終わったと言われる今日、これまで首都圏で開催されていた湘南クラブ、YSFや選手会の中、大型機大会がなくなりましたが、その代替えとしてやや遠いですが4月に新潟大会が行われているのは唯一の救いです。首都圏で残ったのは千葉での11月のFF日本選手権だけになってしまいました。その対策として、YSFがグリーンパークでLP等の小型機大会を開催しています。

ライトプレーンやHLGクラスになると場所はそこそこで良いので、開催方法や場所の使い方を工夫して開催できるように各クラブ考えましょう。

記録会報告

10月記録会HLG/PLG、
新潟・鴫大会報告・長井、石井満
ミニ国際級大会報告・高田富造

11月記録会報告

FF日本選手権報告

お知らせ

FFサロン

きしめん大会案内
ゴムスケール機の魅力・高田富造
超軽量DTの紹介(枝延氏)

伊東機の翼型他・石井満

ライトプレーンの上昇調整・平尾

雑談天国

編集後記

天皇とまつりごと考・平尾

2009年8記録会の報告(36cmHLG/CLG)

10月HLG記録会報告

吉田利徳・石井満……

10月記録会600クラスで実施いたしました。曇りベースでしたが雨は降りません、風は長手方向2~3m/secで3分で場外と言う条件でした。都内には朝雨が少し降っていましたが選手の集まりが今一で7人でした。30年前に代々木でハンドランチをやっていたと言う大江さんが参加、現在宮代で岩槻の若手とHLGをやっているそうです。

斉藤選手は常時25m以上の高度をキープしていましたが3MAXで1位、高さでは負けていない坪井選手は風が気になったか2MAXで2位、4位の三俣選手は投げのパターンはすばらしく安定していたが風に向かってホバリングしながら高度が下がってくる傾向が強く惜しい結果となった、旋回でうまくかわせばプラス10秒は硬いだろう。新潟のチャンピオン石井選手、と稲葉選手は600クラスの機体が無くHLG-Bクラスで肩慣らし。三田選手は慣れないオーバーハンドで大宙返りを連発、振り投げでは必ずフライオフに出てくる実力派だが今日ばかりは話にならない。

今日初参加された大江さんはHLG-Bクラスの機体ですがにベテランらしいきれいな機体を持ってこられました。600クラス以上の大型機を持って記録会に参加されるようになるのと老選手(H尾さん)にとって恐怖の存在となることは間違いなさそうです。これからは是非ランチャーズの記録会に参加してほしいものです。(以上吉田)

埼玉県の松伏田んぼでランチャーズ10月例会が有りました。北風が強く吹いて寒い寒い。フリース2枚着てウインドブレーカー羽織りました。時折小雨が落ちてくる天気です。サーマルも少ない厳しい状況です。今日はスパン600mm未満の機体で争う特別ルール。初めての企画でどんな機体が集まるか楽しみでしたがやっぱりこのスパンでも翼端投げが優勢のようです。みなさん制限ぎりぎりの大きさを振りまわして投げてます。

優勝は斉TOUさん。西の怪物がI東さんなら東の怪物は間違いなく彼でしょう。スパン550mmぐら

いの翼端投げで35mぐらいぶち上げます。あそこまで上がればサーマルが無くても1分は飛んでます。機体は以前紹介した(石井満)トレーナー機の焼き直しの機体です。私が投げて30mの機体を軽く35m上げるレベルの違いを見せつけられます。翼型は綺麗なアンダーキャンバーがしっかり入っています。十分な上反角とテールボリュームで乱れた空気の中でも安定して飛んでます。上がりも浮きも安定も見事にバランスさせてスキがありません。彼が投げると翼端投げとしては小型のこの機体でも80秒ぐらい飛ぶんじゃないでしょうか。末恐ろしいポテンシャルを感じます。

2位はこれまた地元の坪井さん。彼もパワーでは負けていません。カーボンパイプの翼端ペグが「ピー」となりを上げて豪快に高度を取ります。今日はこの2人の高度が抜きんでいました。今後も埼玉勢の旋風は当分やみそうに有りません。その風を世界まで吹かせちゃって下さい。

私は公園用の軽い機体をやっとこさと飛ばしますがこの風で叩かれてまったく飛びません。やっぱり風の強い日は有る程度重くないと無理ですね。反省反省。(以上石井満)

この日は前日からの雨が止むのかどうかさんざん迷って、意志弱く欠席しました。年を取ると体力激減、ファイトも半減で家でクヨクヨしてました。今回の600クラス競技には、大いに野球投げに期待してたのですが、参加者が少なくはアキマヘン。ましてや、何でも飛ばしてしまう斉藤浩なんてのが出てきたので、今では「名古屋の伊東」対策はオッチャカして「斉藤浩」対策が問題です。

このままでは「斉藤浩」と「坪井」で日本のHLGが滅びるのではないかと心配？ 井村選手なら「そんなの全く心配ない、ゼンゼン気にせんでエエ」と言ってくれそうですが、年老いたランチャーはすでに鬱病で、今年の冬が越せるかどうかあやしい。(平尾)

10月HLG記録 10月25日松伏公園、曇り、20度、北風2~4m、60秒MAX 5/10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F 1	F 2	総計
1	斉藤 浩	53	37	60	60	48	46	59	53	52	60	292			292
2	坪井 実	29	60	35	43	35	41	48	48	32	60	259			259
3	吉田利徳	25	60	41	36	54	53	28	24	18	43	251			251
4	三俣 豊	47	22	39	45	27	27	50	34	19	33	215			215
5	稲葉 元	04	19	37	25	27	43	49	36	37	42	208			208
6	大江 賢	18	30	43	35	27	45	46	13	37	34	206			206
7	三田裕一	29	30	35	16	26	16	10	20	10	17	140			140
8	石井 満	22	26	25	29	13	04	27	27	26	12	135			135

10月PLG記録会報告

河田……

後退翼機の林さんがF0を征して優勝しました。直線上昇の後、インメルマントーンの様なかえり取得高度は本日ピカイチでした。F0に残ったダンディ吉本さん最近急にレベルアップしました。

仏の工藤さんと河田はこのところサエナイですね。乱気流でもコンスタントに35秒をクリアする機体と静気流で連続5MAX. が確実な機体を使い分けてみましょうか。(以上河田)

最近はHLGとPLGの競技会場が違うのでパチンコの様子がさっぱりわかりませんが、そこそこの人数で、和気藹々と競技をしている様子です。グリーンパークはFF界では日本最高の場所ですが、パチンコの全国レベルが上がったので、ランチャーズと言えども集客能力はなくなったのでしょうか。

10月PLG記録 10月25日グリーンパーク、小雨、20度、北風3~5m、40秒MAX 5/10投

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	小計	F 1	F2	総計
1	林 善明	26	36	40	31	28	34	11	40	16	34	184	46/18		230
2	吉本凌一	27	29	35	32	37	24	09	40	40	31	184	33/34		218
3	河田 健	05	36	29	06	36	39	40	30	27	06	181			181
4	工藤陽久	40	29	21	29	15	29	35	29	16	09	162			162
5	佐藤幸男	06	14	18	02	01	08	09	25	08	08	74			74

注：F1は60秒マックス、F2は90秒マックスとした。

2009年11記録会の結果(36cmHLG/CLG)

11月HLG記録会報告

11月記録会は予定通り松伏での開催で、参加者14名と多い方。このところ雨がが多いので足場はグチャグチャで水も溜まっていて長靴が必要でした。しかし、この日は暖かく風もないヒコーキ日より、こういう日は幸せですね……。ランチャーズ常連に混じって梅津、平岩、やや遅れてつくばの坂下の3氏が顔を出してくれました。子連れ坂下氏は様子見だけで残念ながら早々に退場しましたが。

さて、早々から気のはやる地元の面々はメッチャ練習していて、その高度たるやスゴイ。ヒコーキ競技は高度だけでアカン事を示してやらなくっちゃ、と私も朝飯の後練習。この日、横浜勢が欠席なのでヒコーキの大きさではバカでかい久保選手の次が平尾の機体で何かイケソーな予感。

競技は予定通り9時スタート、出始めからマックスが続く選手もチラホラいて推定5名程度のフライオフとなるかと……。この日は予想と違って斉藤浩選手がまず脱落したが、まず稲葉選手が7ラウンドでフライオフ進出、ついで坪井選手、平尾、次いで後半連続マックスで三田選手、最後に機体を壊して危うかった久保選手の5人が残ってフライオフとなった。

フライオフ1回目90秒マックスは、いきなり稲葉選手がデカイサーマルに入れて合格、続いて三田選手が卒業、ギリギリで平尾も大サーマルに入れて3人が2回戦へ。2回目、この日絶好調の稲葉選手がマタマタサーマルに入れて120秒合格、三田選手は見事な下降気流に入れて没、平尾は回収に手間取って時間ぎりぎりまで2投、これが幸いして2位、3位三田選手、4位坪井選手、5位久保選手となった。6位がこの日不調の斉藤浩選手、7位はこの日後半高度が出て2マックスまでいった三俣選手、8位しだいに声が出始めてダンダンと高度を上げてきた池田選手、9位はこの日は冴えなかった吉田選手、10位小型機専門の相沢選手、やはり不利だよな……。11位は調子が出ずじまだった斉藤パパ、12位は今回から振り投げに転向した梅津選手、しかし、投げの所得には時間がかかる。

13位は病み上がりの平岩選手となった。今後、梅津選手は機体と投げの取得、久保選手は150gという大型がイイのかどうかの検証で必要でしょう。

11月HLG記録 11月15日松伏公園、晴、20度、北風0~2m、60秒MAX 5/10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F 1	F 2	総計
1	稲葉 元	60	60	57	38	60	60	60				300	90	120	510
2	平尾寿康	60	60	50	44	42	60	60	60			300	67/90	49/54	444
3	三田裕一	43	55	30	60	60	60	60	60			300	90	46/40	436
4	坪井 実	48	60	60	53	60	60	57	40	60		300	54/68		368
5	久保晃英	60	60	42	60	32	51	60	42	07	60	300	35/44		344
6	斉藤 浩	57	45	60	59	60	52	60	60	43	54	299			299
7	三俣 豊	40	53	27	60	31	40	32	48	60	53	274			274
8	池田 昇	49	60	22	41	56	30	24	28	60	44	269			269
9	吉田利徳	26	26	60	47	34	07	43	53	60	43	263			263
10	相沢泰男	43	49	51	24	60	39	24	32	36	36	242			242
11	斉藤勝夫	30	55	47	23	36	18	50	47	35		234			234
12	梅津和則	0	33	03	34	04	30	40	27	24	27	165			165
13	平岩 保	32	22									54			54

11月PLG記録会報告

河田……

今日のグリーンパークは晴れて1~2メートル/秒の風で、PLGにとっては最高のコンディションでした。そこでPLG記録会では初めてかと思いますが、参加者の総意で6/10射に挑戦しました。6MAX.+56秒でこのところ急速にレベルアップした吉本さんが優勝、2位はF.Oに弱い河田、デサ付8グラムトレーナーの倉田さんが3位。記録会を2回続けてズルサボリした優勝経験のある原さんと斉藤さんが4、5位でした。次回以降、気象条件がよければ45秒MAX.どうでしょう？

追記: PLGは当分の間グリーンパークにしたいと思います。2グラム競技はお預けにして、1グラムゴムで50秒MAXとか7/10射を目指して参加のモチベーションを高めていくのは、いかがでしょうか。

11月PLG記録 11月15日グリーンパーク、晴、20度、弱風、40秒MAX 6 / 10投

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	小計	F 2 F3	総計
1	吉本凌一	39	40	40	40	40	40	40				240	35/56	296
2	河田 健	40	40	40	40	40	40					240	44/34	284
3	倉田泰造	40	25	34	38	40	38	31	34	36	40	232		232
4	斉藤竹彦	31	35	40	36	37	40	38	36	27	40	231		231
5	原 国光	29	40	40	33	40	26	35	27	40	35	230		230
6	佐藤幸男	10	40	40	36	28	27	28	14	09	27	199		199
7	中野史郎	40	29	31	23	33	23	34	29	20	29	196		196

第1回新潟HLG競技会(鴉カップ)報告

……長井・石井満

2009/10/18・第一回HLG競技会、新潟笠巻たんぼ

クラスA 1位 石井 満・2位 橋本雅和・3位 岡本 淳

クラスB 1位 石井 満・2位 吉田利徳・3位 長井道雄

今回参加していただいた選手の皆様並びに各クラブ、各位様より大会運営費として多大なカンパ金を頂き誠にありがとうございました。おかげさまで第一回朱鷺カップを大成功に終わることができました。今年のランチャーズ夏合宿で新潟フリーフライトクラブ発足表明があり、その流れ話で新潟でHLG大会を開催したいとランチャーズと新潟の面々で盛り上がり、『朱鷺カップ』の開催が決まったのであります。

大会当日は悪天候の予報でしたが、チョット心配された空模様でしたが何とか持ちこたえてくれました。曇り、風1～3mで風は強くないもののサーマルが弱い、しかし皆さん素晴らしいフライトを見せていました。橋本親子鷹の素晴らしい投げ・新潟もんカルチャー・ショック・伊藤さんのスタイロ翼と見事な投げ・新潟もんカルチャー・ショック・ショックを受けて父ちゃんと石井さん。先に投げたのが石井さん見事に投げが決まり上昇は当日一番か・数秒おくれて高度は石井機・滑空は橋本機・90秒をすぎて両機の高度差がなくなってくる・こりゃどっちがどっちほぼ同時に着地で石井さんが4秒差で優勝、第一回朱鷺カップを手に入れました。(HLG-Bも)HLG-A無制限は良いですね、皆さん心から楽しんで飛ばしたり、見たり、話したり、おもしろかったです。参加頂いた皆様大変お疲れ様でした。

伊東機と石井満機



今後も第二回・第三回……第……と楽しく続けて行きたいと思っておりますので宜しくお願いします。(長井)

新潟で開催された第1回朱鷺カップに参戦してきました。高速をとばして4時間半意外と近く感じます。遠くは神戸や名古屋からも参加がありハンドランチ日本選手権の様相です。スパン無制限のハンドランチAクラスとスパン360mm未満のハンドランチBクラスの両方にエントリーしました。風が弱くサーマルも少ない厳しい天候ですが、そこは全国から集まった強豪揃いですので当然の事ながら接戦が繰り広げられます。無制限のハンドランチAクラスは16名がエントリー。10の5、60秒マックス競技で7名がフライオフに突入です。この浮かない空気でもしっかりマックスを取れるほどレベルは上がってます。みなさん静気流で80秒ぐらいは十分出せるポテンシャルが有ります。中でもスタイログラスバギングで1.2mスパンの新作を持ち込んだ名古屋の伊東さんの機体に注目が集まります。新しくダレラ博士のAG27翼型を採用して上昇も滑空も一段とレベルが上がったように見えます。音も無く糸を引いたように上昇する様は上昇抵抗の少なさを証明しています。滑空もインドア機を思わせるような沈下の少ない浮きで見とれてしまいました。

フライオフは2の1、90秒で行われ私と地元の橋本さんが通過。橋本さんはハンドランチを始めて1年との事ですが100機を越す製作数で、その機体のポテンシャルはたぶん今日一でしょう。橋本さんはスパン1.5m巨大な機体を豪快に飛ばしています。その浮きは異次元な物を感じました。素晴らしいです。第2フライオフは2分マック一本勝負です。二人ともほぼ同時に投げて滑空勝負になりました。私の方が高度は上がりましたが、滑空沈下の差が効いてきてほぼ同時に着地となったようです。ぎりぎり何とか一等賞を頂きました。まったく運が良かったです。

ハンドランチBは梟親方から頂いた紙ハンドランチを飛ばします。まったく以外な事に何と一等賞を頂いてしまいました。親方良い機体ありがとうございました。

7時過ぎには無事町田に到着。頂いた優勝グラス2個で早速かみさんと祝杯を挙げました。トキカップにちなんでピンク色のカクテルを入れて楽しみました。トキの図柄が入ったおしゃれなグラスです。気分最高です。その他にも新米のお米や参加賞の瞬間接着剤などたくさん頂いてきてしまいました。なんだかもらいすぎてしまって恐縮です。特別賞は長井さん提供の大吟醸酒をみんなでじゃんけん大会。こちらは残念でしたが、運良く美味しいお酒をもらった人はホクホクで帰路に付いた事でしょう。第2回は来年のこの時期に開催が予定されています。次回も大勢の参加を願っています。大成功の第1回朱鷺カップでした。役員のみなさんありがとうございました。また来年も楽しい大会開催宜しくお願い致します。(石井満)

HLG - A 60秒MAX 5/10投

NO	選手	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計	F1	F2	総計
1	石井 満	58	M	M	M	51	M	M				300	90	107	497
2	橋本雅和	58	39	55	M	M	M	44	M	M		300	90	103	493
3	岡本 淳	M	M	56	M	M	M					300	86		386
4	長井道雄	43	M	53	49	M	M	M	55	M		300	71		371
5	野中正治	54	59	53	M	53	M	M	M	M		300	62		362
6	春山清夫	55	48	M	M	M	35	M	54	55	M	300	54		354
7	伊藤哲男	58	53	55	47	M	46	M	M	M	M	300	51		351
8	岡本 陸	59	43	M	37	42	42	M	58	M	M	299			299
9	三田裕一	51	39	50	48	M	49	59	M	M	53	292			292
10	斉藤勝夫	57	57	48	43	53	45	0	52	55	M	282			282
11	吉田利徳	57	49	48	39	39	49	35	44	M	M	275			275
12	笠井修一	47	51	33	52	30	58	56	48	5	55	272			272
13	林 弘毅	25	46	22	25	21	33	31	56	51	5	197			197
14	細海 修	25	46	49	25	32	24	40				192			192
15	細海 勝	23	15	14	15	18	44	28	26	44	28	170			170
16	斉藤義幸	28	27	5	12	27	36					130			130

HLG - B 60秒MAX 5/10投

NO	選手	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計	F1	F2	総計
1	石井 満	35	34	29	28	30	30	31	35	36	54	194			
2	吉田利徳	34	30	24	5	37	21	36	45	1	27	182			
3	長井道雄	46	18	19	28	27	14	27	30	23	36	167			
4	橋本 玄	20	20	22	16	21	21	19	19	23	17	107			
4	橋本雅和	29	24	34	18	35	25	37				107			
6	細海 勝	2	14	21	19	12	11					77			

2009年FF日本選手権競技会報告

.....平尾

千葉県旭市万歳田んぼで、11月1、2日FF日本選手権競技会が開催されました。参加選手は約40名でやや少ないのは、2日がウィークデイで休めない人がいたためです。競技会前日からやや風

があって、競技第1日は早朝はガスって開始が遅れたものの、次第に風が出て5ラウンドで競技打ち切り、フライオフは翌日開催と決定、しかし第2日も風。しかし、日程が詰まっているので予定通り開始しF1Bは決着しました。その後F1A、Cの競技が継続されて、競技時間は短縮されたものの無事実施されました。ご苦労様でした。

* F1B

今回は風のため飛行方向の奥行きを十分に取った初めての発航場所で、勝負は計時員にどこまで見えるかに期待するのみ。この種目、参加選手の約半数がFF世界選手権参加経験者という相変わらずの人気で、その数22名とすごい。まさに日本が世界に誇るレベルの競技会である。それだけに一発ドジルと上位は望めない厳しさがある。この日は早朝のガスのせいで1.5時間遅れで競技はスタート。しだいに風が強くなる状況の中パワーダイブする選手もいて、最終的には6人がフライオフに残った。世界チャンピオン・西沢選手はみんなに嫌われまいと早々と2ラウンドで落としてニコニコ。

それに引っ張られてか名古屋勢は早々と全滅。同じくクロアチアでワールドカップに出場の河合選手は最終5ラウンドで落としたのは残念でした。可愛げのない、まだまだ元気な織間、津田両選手はしぶとくフライオフに残って今年も人気をなくした。ただ1人、バルサ機で参加の浅沼選手は今年もしぶとい飛行を見せた(カーボン機が何よ!!!)。今年もカーボンだかバルサだかわからない機体を飛ばす湘南の大塚選手はまだまだ元気だ。未だにアルコールの減らない前田選手は、競技中にアルコール切れでフライオフに残れず。名古屋の白井選手「競技中教え子が挨拶に見え、見栄を張りすぎて落とした。今年初参加の松尾選手はまるでベテランのような素晴らしい発航を続けながら、もう一息のところまでフライオフに残れず惜しかった。同じく新潟の高山選手は、なれない太平洋岸の風に翻弄されて結果を出せずと、明暗が分かれた。残った田岡、三留、井沢、新谷、津田、織間の各選手が、風のため翌日早朝の10分フライオフに挑戦した。

勝負は高度よりも見えるかどうかにかかって国内のみ悪運強い田岡選手が優勝し、パンツが清潔でウンの付かない三留選手が2位となった。3位には久しぶりに井沢選手がキタ! 4位は本人も何故飛ばなかったかヨクワカランと言っていた新谷選手、5位はデサをウイグラーと掛け違った津田選手、6位は興奮しすぎてゴム2回全断の織間選手となった。

* F1A

この日は昨日と違って北風、発航地点をギリギリ風上に設定したが山が近すぎた。その為、細かな突風にみまわれ、曳航がやたらと難しく各選手苦戦した。出始めにサークリングに挑戦した選手は機体が制御できず1ラウンドは1分以下が続出。この日、唯一3マックスの和田選手が4位、結局は、ほとんどサークリングしなかった熊井、中沢、櫛引の3選手がそこそこの成績に押っつけて上位を占めた。

この日、策士策に溺れる2回も全断しながら、唯一3マックスの和田選手が4位、2マックスの大矢選手が5位に付けた。機体は電子式が結構普及しているが、それ以前の問題で、このざまでは日本のグライダーの現状は寂しい限りである。但し、この日は不安定な割には機体の損傷は少なかったのが救いか。

* F1Cについては場所が離れていたもので、全く見ていないので省略。小坂橋選手が何十年かぶりに出場したのは大歓迎である。

2009年度日本選手権

2009-11-2

F1A

No.	登録 No.	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	Fo1	合計	順位
1	34F000194	熊井 恒雄	180	166	180	180	147				853	1
2	32F000435	中澤 正雄	76	180	112	180	180				728	2
3	33F000148	櫛引 敬司	148	99	38	180	180				645	3
4	33F026216	和田 光信	71	18	180	180	180				629	4
5	33F130332	大矢 高士	0	180	75	180	81				516	5
6	67F130731	生駒 大造	34	146	95	59	180				514	6
7	33F118017	田久保 潤一	0	180	83	36	154				453	7
8	32F000435	平尾 寿康	11	52	32	62	22				179	8
9	34F107123	平岩 保	2	0	0	0	0				2	9
10	32F000435	鷲見 健次	0	0	0	0	0				0	10

2009年度日本選手権

2009-11-1

F1B

No.	登録 No.	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	Fo1	合計	順位
1	33F1624	田岡 真	180	180	180	180	180			304	1204	1
2	34F001128	三留 益良男	180	180	180	180	180			272	1172	2
3	33F1104	井澤 正男	180	180	180	180	180			137	1037	3
4	34F130807	新谷 誠悟	180	180	180	180	180			88	988	4
5	33F227	津田 晃英	180	180	180	180	180			53	953	5
6	32F259	織間 政美	180	180	180	180	180			0	900	6
7	34F103744	坂巻 敏雄	180	180	180	159	180				879	7
8	34F185	岩田 光夫	180	154	180	180	180				874	8
9	33F127514	谷塚 正実	180	180	151	180	164				855	9
10	33F128721	松尾 哲郎	180	128	180	180	180				848	10
11	67F44764	河合 良	180	180	180	180	102				822	11
12	53F122789	白井 正巳	180	180	109	164	180				813	12
13	53F754	西澤 実	180	180	156	180	116				812	13
14	34F132260	榎本 栄一	169	180	79	178	180				786	14
15	51F127682	吉田 潤	109	106	143	180	175				713	15
16	54F258	中田 光恭	90	180	180	180	72				702	16
17	33F000179	前田 喬	180	142	180	180	0				682	17
18	32F57903	浅沼 資司	173	113	133	180	78				677	18
19	34F685	大塚 恵司	146	180	65	105	0				496	19
20	34F80713	菅原 隆郎	131	164	0	0	0				295	20
21	45F132884	高山 実	0	0	0	0	0				0	21
22	66F000317	小我野光博	0	0	0	0	0				0	
23	67F400230	小池 勝	0	0	0	0	0				0	

2009年度日本選手権

2009-11-2

F1C

No.	登録 No.	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	Fo1	合計	順位
1	33F00622	関沢 一雅	180	180							360	1
2	66F00113	増田 哲司	176	139							315	2
3	34F00130	小板橋 勇	72	176							248	3
4	32F00131	江連 明夫	54	180							234	4
5	33F00212	金川 茂	0	0							0	5
6	34F00195	伊藤 俊介	0	0							0	5

2009年フリーフライトミニ国際級大会報告

……高田富造

11月22日(日)滋賀県東近江市能登川町大中において、天気予報にはらはらせられましたが晴れとなり無事に完了しました。正直のところ、要員の問題など心配が多かったのですが機部君や選手の同伴者、見学の方、平城宮の新規の方など快く協力いただき、スムーズで和気藹々の和やかな雰囲気振興できました。参加者も心配していたのですがH1GやF1Gでは新しい顔ぶれが増え賑やかになりました。LPも顔ぶれに変化が出て勝負を面白くしてくれました。H1Gの隆盛は見ても驚く新しい技術や開発があり勉強になりました。多種目の競技会は刺激になり楽しいです。ともかく速報第一弾として集合写真を掲示します。記録はまとめてFF委員会に報告し次第に掲示します。遠路はるばる参加いただいた皆様、本当にご苦労様でした。役員の皆様、快く無理をお聞きいただきありがとうございました。なにか、今後の見通しが湧いたと思える競技会になりました。その点で競技委員長としては熱いものがありました。

* F1G

F1Gは中田さんと坂巻さんの2名による決勝で坂巻さんが競り勝ちました。F1Gはハイテクから在来工法の入門者までいろいろおられておもしろかったです。2分ですからそこそこ勝負になります。

どなたにでも可能性がある競技です。今後も新規参入があればよいですね。佐々木さんは平城宮でミニクーペをこつこつ続けられている方です。いよいよF1Gに登場です。ぜひF1Bにも挑戦してください。坂巻さんの写真はごめんね。

* F1J

F1Jの入賞者3名? いや微妙に違うぞ。F1J優勝はMAXで増田選手だった。これは往年のF1Cの常連だ。中央の岩村さんだけが御年82歳にして現役で表彰状を手にしている。おまけにLP級にもダブルエントリーと欲が深い。意欲的というのか、若い気というのか。写真左は吉川(兄)EIZOさん。吉川(弟)は仙人になったようだが兄は4MAXとしぶとい勝負だった。EIZOさんの復帰はエンジンでは恐怖があるので止めて欲しいけどね。ともかくめでたい記念写真だった。

* その他

この競技会の面白さは多種目が一堂に会することだ。ものすごく勉強になった。とくに進歩の早いH1Gは見ているだけで目が釘付けになった。

すごいもの見ました。なんというのか、いわば、電子火縄タイマーってとこかな。電子タイマーは電子回路は小さく軽くできても、出力が問題で重量のもとでした。超小型サーボを使うとか、超小型リレーを利用するとか、工夫されています。今回目にしたのは、ニクロム線に通電して輪ゴムを焼き切るという、まさに目からうろこの代物でした。電力は外部から点の接点でチャージできます。ボタンをちょいちょい押ししてタイムを入力します。詳しい話を持ち主にお聞きしたいですね。

競技会の終了後、急遽、関西連合会の集まりをもち、かもねぎ大会の開催を決定しました。正式には早急に関西連合会の会議を持ち要綱などを決定し発表します。ともかく開催日時だけでも速報します。開催日は2010年3月7日(日)、場所はこの大中田んぼを使わせていただきます。前泊方式でおこないます。前日の6日に受付と機体検査(自主申告)をおこない、ミーティングをもちます。宿舎は、休暇村近江八幡東館(いつもの西館は工事)になります。まずは日程を押さえて下さい。(高田)

幸運にも開催当日はヒコーキ日和となり、イイ大会だった。その中で注目はH1Gで、他種目と違って変化がスゴイ。且つ、各選手、精進して高度もスゴイ。たまたま、伊東選手と長井選手の第4フライオフを見たが、回転投げの伊東選手の高度とそうでない長井選手のそれには明らかに差があった。

私もナントしても回転投げを習得しないと、今後勝てる望みは無さそうだ。

今回も次々と新しい機体が出てくる。今回の注目は、作るのは手間がかかるようだがスタイロホーム削り出しの円弧上反H1Gである。円弧上反は空力的に有利な上に継ぎ目がないので強度的にも優れているが、岡本選手がこれを3機持って来た。しかし、残念ながら飛ばすのは見れずじまいだった。

伊東選手のスタイロホーム削り出しの2段上反H1Gは飛ばすのを見たが、墜落大破して調整未了なので評価は出来なかった。UH1Gも多種多様なデザインが増えて、どのタイプが高性能なのか混沌としてきた。ライトプレーンは、どうやらキットとオリジナルに別れるようだが、これは競技機の宿命で、2分化が定型化してきたようだ。このクラスの競技が停滞するのは避けたいものだ。(平尾)

HLG - A級(スパン90cm以下、重量80g以下)

順位	ラウンド	1	2	3	4	5	FO1	FO2	F03	F04	合計
1	伊東 哲男	60	60	60	60	60	90	120	180	155	845
2	長井 道雄	60	60	60	60	60	90	120	180	90	780
3	毛利 修	60	60	60	60	60	90	120	139		649
4	石井 満	60	60	60	60	60	90	109			499
5	春山 清夫	60	60	60	60	60	90	51			441
6	野中 正治	60	60	60	60	60	54				354
7	稲葉 元	60	56	60	60	60					296
8	岡本 淳	55	60	60	60	60					295
9	岡本 陸	56	60	60	51	60					287
10	井村 真三	48	56	60	60	60					284
11	掛山 吉行	34	60	60	60	60					274
12	園田 宏樹	60	45	42	60	60					267
13	菅野 俊行	40	58	60	41	60					259
14	岡本 光幸	39	57	60	47	52					255
15	池田 昇	44	60	60	50	34					248
16	吉田 利徳	30	53	44	60	57					244
17	斉藤 勝夫	53	49	55	19	60					236
18	笠井 修一	53	23	33	54	60					223

HLG - B級(スパン36cm以下)

順位	ラウンド	1	2	3	4	5	FO1	FO2	合計
1	園田 宏樹	32	34	36	41	46			189
2	岡本 淳	12	28	50	34	60			184
3	石井 満	26	41	29	27	60			183
4	稲葉 元	22	0	26	34	41			123
5	岡本 光幸	0	16	29	35	27			107
6	岡本 陸								0

F1G級

順位	ラウンド	1	2	3	4	5	FO1	FO2	合計
1	坂巻 敏雄	120	120	120	120	120	140		740
2	中田 光恭	120	120	120	120	120	111		711
3	吉田 潤	109	120	120	120	120			589
4	河合 良	120	120	107	120	120			587
5	松岡 恒夫	97	120	80	120	101			518
6	枝 延	40	107	93	120	95			455
7	大塚 恵司	97	120	0	81	120			418
8	佐々木 俊和		33	60	60	72	71		296

F1H級

順位	ラウンド	1	2	3	4	5	FO1	FO2	合計
1	吉岡 靖夫	119	113	89	120	120			561
2	平尾 寿康	81	120	42	120	102			465
3	中川 浩伸	46	90	85	77	56			354

F1J級

順位	ラウンド	1	2	3	4	5	FO1	FO2	合計
1	増田 哲司	120	120	120	120	120			600
2	吉川 強	120	120	120	120	114			594
3	岩村 慧一	72	47						119

LP級									
順位	ラウンド	1	2	3	4	5	FO1	FO2	合計
1	嶋田 信	60	60	60	60	60	180	169	649
2	岡崎 一良	60	60	60	60	60	180	167	647
3	藤田 清明	60	60	60	60	60	165		465
4	吉田 勝海	60	60	60	60	60	143		443
5	梶原 正規	60	60	60	60	60	133		433
6	岡本 直樹	60	60	60	60	60	129		429
7	荒谷 靖久	60	60	60	60	60	121		421
8	岩村 慧一	60	60	60	60	60	88		388
9	西澤 実	60	60	60	60	60	87		387
10	平井 久俊	60	60	60	60	60	86		386
11	高田 富造	60	60	60	60	60	74		374
12	松下 行治	60	60	60	60	60	39		339
13	川阪 末継	60	56	60	60	60			296
14	野々村義則	48	60	58	52	60			278
15	吉田 順一	0	0	0	0	0			0

お知らせ

平成22年度きしめん大会案内(参考)

開催日時	平成22年2月28日(第4日曜日) 8時30分開会式、8時45分競技開始
開催場所	三重県鈴鹿市池田町タンポ
種 目	中型混合級 E・F1J級、G・F1H級、R・F1G級の機体。2分MAX5ラウンド HLG級・1分MAX10ラウンドの上位5ラウンド 小型混合級・スパン30インチ以下・ゴム重量10グラム以下のゴム動力機なら、どんな機体でも参加できます。1分MAX3ラウンド。ただし、3ラウンド中に1MAXを獲得した競技者は3ラウンドの試技をすべて行うことなくフライオフに進むことができる。
参加費	2000円、ただし中学生以下は無料とします。複数種目のエントリーの場合、追加種目ごとに1000円お支払いください。
その他	当日、現地にて競技参加を受付けます。当日の天候等によりラウンド数やMAXを変更する場合があります。原則として選手同士の相互計時とします。参加者はストップウォッチを持参してください。また双眼鏡を持ってみえる方はご用意ねがいます。事故が起きた場合は競技者本人の責任において対応してください。
主 催	CFFC
実行委員	中型混合級 - 吉川強、佐藤宏彦、吉田潤、HLG級 - 掛山吉行、 小型混合級 - 竹内栄重、鈴木勝

FF文化サロン

ゴム動力スケール機の魅力

……KFC 高田富造

1. HLG競技に参戦

ランチャーズ機関誌のえらいところは視野を広げられるところだ。平尾老人は紙面の枠を自由奔放にはみ出しまくる。えてして自分の専門種目とその出発年代にこだわるものだ。各クラブの特徴というのは、つまるところそんなところかも知れない。ところがランチャーズ機関誌はHLGだけかと思いきやライトプレーンや電動FF、エアエンジン、ゴム動力スケール、そうかと思えばオートバイや戦車の話し

まで広がる。愛読者の私も洗脳されてとっぴな行動に足を踏み込まされる。

平城宮LP大会はゴムスケールの部を新設し、ガチンコから一步おいた楽しさを生んだ。平尾老人のひらめきの成果だ。とうとう11月のウエスタンカップには私もH L Gで出場してしまった。もちろん、90cm級のサイドスローだぞ。ランチャーズ8月例会の記事を見て、「打倒勝山、平尾！」を目標にした。結果を見て欲しい！あのH L Gの聖典を執筆したのは勝田さんだが、名前が似ているY S Fの勝山さんに勝ったのだ。

1. ゴムスケールはコスプレ勝負

さて、本題はゴム動力スケールだ。平尾さんの提唱を見て私はこれを「ミニクーブのコスプレ」と考えた。作って飛ばしてみるとコンセプトは正しかったと思えるが、胴体断面積の魔法に立ち塞がれた。

いくつか試作した。成功したのは「ミニクーペ」に引っ掛けた「モノクーペ」。やはり太い胴体の抵抗はすごい。上昇はなんとかなるが滑空が情けない。空転プロペラの抵抗どころではない。そこであれこれ機種探しをしている。一番注目しているのはイリュージョンのIL-2 シュトルモヴィク地上攻撃機である。大面積の主翼に比べると胴体が細い。液冷で機首も細い。これが気に入ったのは、エンジンから操縦席、燃料タンクまでをエビガニの殻のような鋼鉄のモノコックに収め、操縦士は西洋甲冑をまとった騎士のようにコクピットの狭い隙間から前方をにらむ、後部胴体は一変して木造プレハブに、そしてむき出しでまたがった後部銃手の勇気。馱馬車の屋根で連発銃をかまえるジョン・ウエインだ。

3. 実物を見ないと分からん

文林堂の世界の傑作機シリーズを読んでみた。考えるほどに興味湧いてきて「実物を見ないと分からん」と思う。思いつくままに実物を見てきたのだ。写真1は、IL-2 で第2次大戦を戦い抜いた立役者がこれだ。写真2は、IL-10 で大戦末期から朝鮮戦争まで実用。後者はかなりまともになっているのでおもしろさが減じる。注目は前者だ。脚をそのまま後にたたんで半露出にするか、軸を90度回転させ主翼に収めカバーでふたをするか、など変化がある。機首の装甲部分はあまり変化がない。

どうなっているのか、興味を持っていたのは機首の装甲だ。ニッケルモリブデン高張力鋼で厚さが4mmから6mmで部位によって使い分けられている。これを切断し、プレスするのも大変な技術だったろうし、結合はどうなのか。厚さの違う鋼板を溶接すれば歪みはどうだったのか。



写真 1



写真 2

写真をご覧あれ。機首の仕上がりはまことにきれいだ。鋼板のパネルごとの突合せは日本車のドアパネルのごとくピタリンコンだ。わがフィアット社の小型車より数段きれいだった。接合は溶接ではなかった。やはり無理なのだ。戦車はやっているが鋼板の厚さが何十cmだもの。パネルの結合はリベットとネジだった。この機体を見てから博物館で中世の甲冑を数百、ひょっとして千以上かも、眺めた。胸の装甲の工作にどうしても目が釘付けされた。欧州の鍛冶仕事による鉄の細工は伝統的だと理解できた。IL-2 の装甲はこれだ。見事な突合せは彼らの伝統技術だ。西洋甲冑は鳩胸になっている。

これは薄い鋼板でも鉄砲玉を跳ね返す工夫なのだ。イリュージョンは4mmの鋼板でも被弾効果があるとしたのだろう。後部胴体の仕上げは粗雑に見えてしまう。トラックのオープンな荷台のような後部銃手席は勇気なのか強制なのか、迷ってしまう。現代のジェット攻撃機の確かミグ23なのか、ジュラルミンの仕上げを見たがものすごく粗雑だった。軍用機はこれでよいのだと割り切っているのかも知

れない。



他人の文化を理解するには実際に見てみないと分らんものなのだと痛感した。

さてゴム動力スケールはどうまとめるか、悩ましい冬になりそうだ。ところに移り気な私は「スーパーパイパー」の存在に惹かれている。AVIAT HUSKY のAC-1 という軽飛行機だ。かのパイパーをモデルに近代化したもの。往年の名機をモデルにした新作が欧州で流行りらしい。フィアットやミニクーパーと同じことだ。 www.jbi.com.pl でご覧あれ。 www.kbul.pl も面白いぞ。

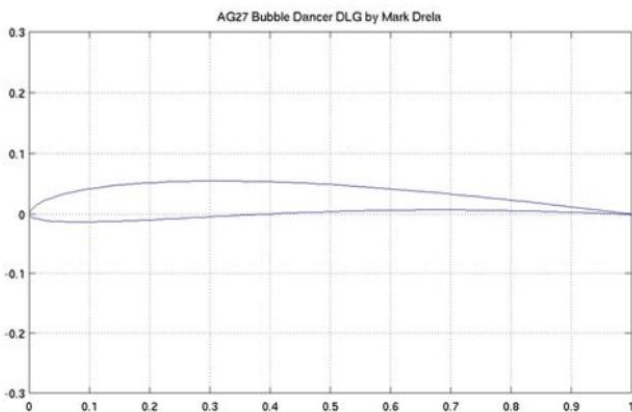
伊東製作所製UHLG・スタイロホーム翼他

……石井 満



伊東さんの新作HLG。主翼はスタイロフォームをガラスバギングした構造で軽量・高剛性を実現してます。青い主翼が綺麗です。つるつる・カピカで指に吸い付きます。スパン 1.2 mでも主翼の仕上がり重量は 50 gほどの事です。バルサだと比重 0.08 ぐらいの特上バルサで作って何とかぎりぎり実現可能な重さです。強度・剛性もガラスバギングに分が有ります。

この工法はRCHLGではごく一般的に使われていて技術的には成熟した工法です。色々なサイトでその製造工程が説明されているようです。肝はいかに少ない接着剤(専用の低粘度エポキシ)で仕上げるかだそうです。熱線カッターで翼型に切り出したスタイロフォームの上下面に極薄のマイクログラスをエポキシで貼り付け余分なエポキシをヘラでしごいて外に押し出します。その後PPシートでくるんで真空引きして圧着させます。エポキシが硬化する温度を管理する為簡易的な炉の中に入れる事もありますが通常は常温硬化タイプのエポキシが使われるようです。マイクログラス貼っていないスタイロフォームはまったくふにゃふにゃで完成後の剛性がまったく信じられないのだそうです。伊東さんのこの新作は翼型にダレラ博士のAG27を採用しています。軽いアンダーキャンバーの付いた薄翼です。バル



サでは翼厚が不足で大きな機体では強度不足で採用できません。私の感覚ではこの翼型は究極の

性能が有ると感じます。

フリーのノンフラップ翼にはこれ以上の性能は無いでしょう。昨日のこの機体の飛びをみてその優秀さが間違いない物に感じられました。強風時での使用や上昇高度をもっと優先する場合はあと少し前縁のそぎ上げを増やせば全天候で使用できる無敵の翼型に思えます。

私もこの工法を今後試す予定ですので、ぜひこの翼型でテストしてみます。強度と重量に余裕が出来るようならもっと大型にシフトできる可能性大です。スパン 1.5 ~ 1.8 m が当面のターゲット。

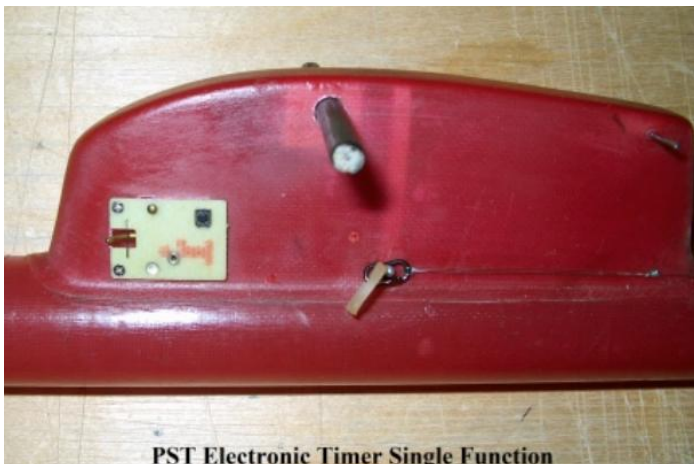
いよいよ2分半の性能が夢では無くなる日が来そうです。誰が一番早くたどり着けるかこの競争も目が離せません。究極は3分の壁がいつ破られるかでしょう。

追加 ネット巡回しているとRCHLGの製作記事でスタイロバギング翼の無段上反角(円弧上反角)製作記事を偶然発見。何とフリーフライト用の主翼だそうです。展開スパン930mmでバギング終了後のジョイント前の状態で両翼で驚異の28g。めちゃくちゃ軽いです。バルサなら少なくとも40g以上に成るでしょう。軽さも魅力ですが、上反角のジョイントが中央の1か所だけって所も魅力です。翼端上反角のジョイント部分が、投げで掛かる曲げに耐えられず接合部付近でコアつぶれやカーボンスパアの浮き上がりが問題となるのですが、この無段上反角ならそんな心配も要らなくなるグッドアイデアです。接合する手間も省けて重量も軽く出来ます。良いことづくめ。早速真似してトライしてみたいと思います。

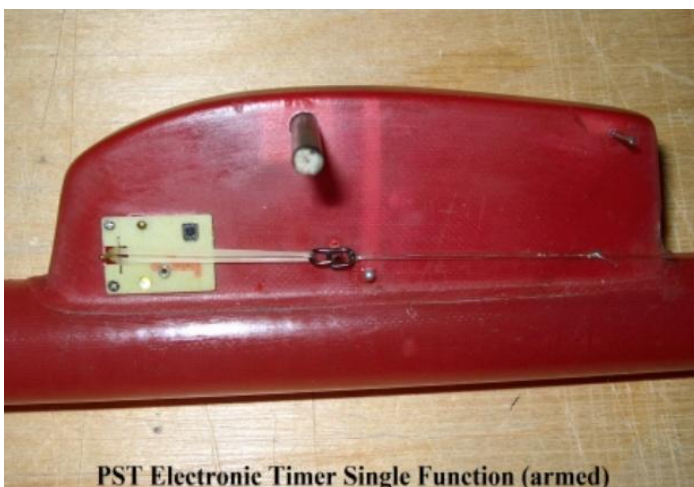
超軽量電子DTの紹介

.....平尾

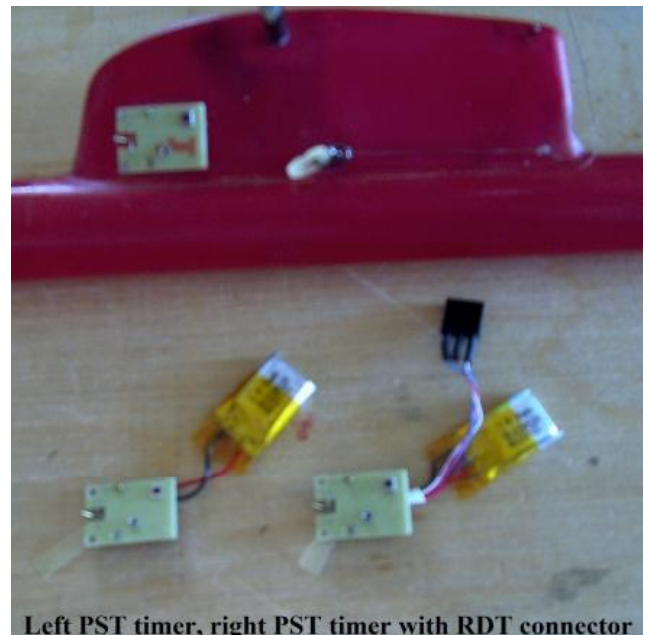
今回の大中学生大会でボブ・ホワイトのF1Gを発見。メカ嫌いのボブホワイト機も現在ではハイテク素材で出来ていて様変わりである。これを飛ばしていた枝延氏の説明によると、なんとこの機体電子タイマーを搭載していると言う。見せて貰うと大きさは13mm x 20mmで厚みは5mm程度、重量は電池込



PST Electronic Timer Single Function



PST Electronic Timer Single Function (armed)



Left PST timer, right PST timer with RDT connector

みで1.6gと言うから驚きである。但し、デサのみの1アクションである。当然ながら時間設定は正確無比でマックス+数秒の設定ができる。

セットの方法は右上のボタンの押し方で分と秒がセットできる。このDTは、ゴムを引っかける針金に設定時間になると電流が流れて赤熱し。ゴムが焼き切れてデサがきくと言う。これは簡単で面白い…。これだとサーボモーターも

不要なわけで、軽量、簡単で解りやすい。

この品はインターネット上のスターラインで扱っていて、価格は65ドル+送料、現在は円が高いの

で1万円以下でしょう。但し、スターラインのホームページには載ってないので、問い合わせをすると教えてくれると言う。これほど軽いとHLGでも搭載可能だが、こんな高級なデサを積むと機体を無くせないで、気を遣いすぎてくたびれるだろう。枝様、情報を有り難うございました。

以下はこれを機体に装着して使っている、枝延(えだのぶ)氏のコメントである。

ST Electronic D/T Timerは火縄の替わりに、セットされた時間に熱線でゴムを溶かし切断する物です。セットは1分、2分、…10分まで1分刻みと、5秒、10秒、15秒…55秒まで5秒刻みを組み合わせて最長10分までセット出来ます。

PST Electronic D/T Timer with Li-Po Battery込みの重さは1.6gでした。本体のサイズは縦13mm x 横18mm x 厚み3mm、プラスLi-Po Battery(3.7V 20mAh)の大きさ(12mm x 20mm x 3mm)です。購入先は下記の会社です。

"Starlink-FliteTech Models" <http://www.starlink-flitetech.com/> D/Tの写真を添付します。

価格を確認したところ、PST Electronic D/T Timer. US\$65.00

Li-Po Charger for above. US\$35.00

PST Electronic D/T Timer with RDT Connector. US\$80.00

でした。専用送受信機の値段は解りませんが受信機は1gだそうです。RDTはVictor Stamovから入手出来るそうです。連絡先は: f1a@voliacable.com or stamov@hotmail.com. だそうです。

石井英夫氏監修・ライトプレーンの4ステージ調整法

……平尾

今回ライトプレーン製作本を出版する手伝いで参考資料として作成した文です。元文は石井英夫氏が1976年5・6月に「Uコン技術」に発表された有名な「F1Bの4ステージ調整法」を参考にしています。基本は右旋回上昇、左旋回滑空です。不信な点はランチャーズまで…

1. 滑空調整

重心を主翼の80%位置程度にして、機体を水平よりやや下に向けで軽く押し出す。

症状と対策 機体が途中から頭上げになって後、ストンと落ちる場合は、主翼位置を後方に下げる。

滑空した機体が直線上にスーと伸びて着地する場合、主翼位置を細かく前後に動かして最も遠くまで飛ぶ位置に調整する。

機体を放すとストンと下向きに突っ込む場合は、主翼を少し前方によせる。

いずれの場合も、焦らずに主翼を前後に動かして根気よく調整する。そしてほぼ綺麗に滑空するようになったら、垂直尾翼を左(後方から見て)にひねって、少し左に滑空旋回するよう調整する。

2. 手巻き100回巻き(プロペラ・サイドスラストの調整)

ほとんどのコメタルが-3度程度のダウンスラストが付いているので、コメタルをいじって右3度程度のサイドスラストを付ける。そして手巻きでゴムを100回程度巻き、機体をやや上向きにプロペラを回転させてから発航する。

症状と対策 発航後、機体が直線上に頭を上げて宙返り気味になる場合は、さらにサイドスラストを増やす。

機体が右に旋回しながら上昇して半旋回してからプロペラが止まる。この場合も最も高度を取るよう細かくサイドスラストを調整する。

機体が右旋回しながら墜落する。この場合はサイドスラストを減らす。

機体が綺麗に右旋回しながら滑空に入る場合は、その後の滑空状態を細かく観察し不安定にならないように主翼位置を調整する。且つ、滑空旋回が適当な大きさになるように垂直尾翼の効きを調整する。尾翼をいじった場合には、再度100回巻きをしてサイドスラスト調整をやり直すこと。

3. ワインダー50回巻き(手巻き250回)

機体を固定しゴムを1メートル程度引っ張ってワインダーで50回巻く。そして機体を30度程度上向きにして、プロペラを回してから発航する。

症状と対策

ここまで来ると多分、機体は右旋回しながら綺麗に上昇する。そしてプロペラ停止までに1.5旋回する程度なるようにサイドスラストを調整する。上昇で旋回しすぎる場合はサイドスラストを減らし、少

なすぎる場合はサイドスラストを増やす。ここでも最も高度を取るようにサイドスラストを細かく調整する。次に滑空を細かく観察し、さらに適当な旋回半径にする。この場合も滑空旋回半径を修正した場合には、サイドスラストも変化するので、面倒だが再び100巻きに戻って調整する。我慢、ガマン…

4. ワインダーフル巻き

しっかりと機体を保持し、ゴムを目一杯(2メートル以上)引っ張ってからゴムを巻き始める。そして目一杯引っ張ったままで50回程度(手巻き250回)巻き、その後は少しずつゴムを縮めながら巻き終わりが丁度フック位置になるようにする。1/5のワインダーで100回以上、出来れば120回(手巻き600回)程度巻き上げること。巻き終わったゴムが堅くなっているはずである。発航は機体を60度程上向きに保持し、投げ上げて発航する。機体は多分急激な頭上げ状態のママ螺旋状に上昇し、しだいに朝顔状に旋回半径を大きくしながら最後は水平になり滑空旋回に入るはずである。この場合も、上昇のぐわいや、滑空をよく観察して、多少の乱気流にも崩すことなく安定して飛ぶ事を確認する。

滅多にないことだが、綺麗な滑空をしていても突然発狂して墜落する場合は、主翼の迎角不足なので、パイロン等を改良して主翼の迎角を増やし、重心位置を直してから再び滑空調整からやり直すこと。ライトプレーンの上昇調整法は初級、中級、上級とも全て同じである。頑張ってください。

雑談天国

天皇と日本のまつりごと考 始めに

……平尾

原初らい、日本の最高位権力者は天皇である。しかし、天皇が最高権力者として実際に君臨したのは1159年保元平治の乱で平清盛が実権を握るまでで、且つ、それまででも実権を握っていたのは一時期に過ぎない。が源頼朝が征夷大將軍に任じられて鎌倉幕府を開いて以降から明治時代まで、天皇は国主(国の代表)ではなかった。以降、天皇 征夷大將軍 執権と下位に実権が移り、時の権力者が誰なの段々ややこしくなっている。外国、特に中国韓国では、王を殺し新王朝を建てての王位篡奪が普通であった。しかし、日本ではそのような王位継承は行われなくて、且つ、天皇や征夷大將軍が殺された例は誠に数少ない。結局、天皇家は千年以上に渡って存続し、飛び抜けて世界で最古の王族である。なぜ、日本ではこういう事が続いたのだろうか。

1. 全般

天皇は歴史上重要な権威を有していたが、鎌倉幕府成立以後は、武家の棟梁が代々世襲で征夷大將軍になり日本の最高権力者として君臨した。しかし、時の権力者も天皇を廃位することなくその権威を尊重して利用し、天皇の宣下によって摂政関白、征夷大將軍への就任しその統治権を正当化した。しかも、まことに不思議なことに、時の権力者が天皇を殺害や篡奪を画策した例はないとされる。例外として、939年平の將門が東の天皇(あずまのすめらみこと)と名乗った事実があるが、時の天皇を「本天皇」と呼んでおり廃位する気はなかったようだ。

過去にも天皇が廃位されたり遠島の例はあるが、殺されたのは諸説あるが崇峻天皇が蘇我馬子に殺された例のみであろう。また、征夷大將軍も実朝が殺されたが、それ以外の例はない。その下の執権となると、さすがに殺そうとする動きは増えるし、少ないながら殺された例もある。ところが外国、特に中国韓国では王を殺して新王朝を起こすのが普通であった。この場合の最大の欠点は文明の断絶である。なぜならば、王朝がダメだったので篡奪し新王朝が出来たのであるから、過去の王朝の歴史は全て抹殺されるからである。

しかし、日本は天皇制が存続したおかげで、古代の膨大な書籍や文化遺産が残っている。欧米も比較的残っているが、それはキリスト教が存続したからである。しかし、ヨーロッパの文化遺産の有名な物は大部分地中から発見された物で全てが博物館にあり、使われたままで現物が残っていて時々ではあるがとんでもない物が民間から出現する日本とは事情が異なる。これが中国韓国となると13世紀以前の書籍文物は皆無となる。

2. 鎌倉幕府(1192年~1333年)141年間

平清盛は関白太政大臣となり幕府を起こすことはなかった。しかし、その平家を滅ぼした源頼朝は1192年、征夷大將軍になって鎌倉幕府を起した。3代実朝の暗殺は政治的な追い落としを狙ったも

のではなかったが子孫が絶え、以降は家臣の北条家が実権を奪ったが、終生征夷大將軍にはならなかった。1229年の4代將軍以降は公家皇族を名目上の將軍とし、北条は執権のままであった。

北条氏が幕府内では將軍をはるかに凌駕する権力を握り、將軍職任命を強要できるだけの實力を持っていた。しかし、自らは將軍にならなかったのは北条家(前北条氏)が伊豆の小豪族だったという、その出自の低さのため有力御家人たちの心服を得ることは難しかったためとされる。しかし、何とも不思議な、ナントも日本的も政治形態だろう…。これを見ても解るが、日本では徹底的に反対勢力を排除(殺戮)して権力を奪う方法は取られなかった、いや、日本人はそれを嫌ったのである。

執権(しっけん)とは、鎌倉幕府の職名で政所の別当の中心となるものの呼称であった。初代執権は將軍源頼朝の妻北条政子の父時政である。それ以降執権を北条氏の権力の足場とする。2代執権の北条義時が侍所の別当を兼ねてからは、事実上の幕府の最高の職となった。しかし、1333年反幕府勢力の討伐のために京都へ派遣された有力御家人の足利高氏(尊氏)が、一転して後醍醐側へつき六波羅探題を落とすと、新田義貞が上野国で挙兵し、これに呼応した関東の御家人たちと鎌倉を攻略して、鎌倉幕府と北条氏は滅亡した(元弘の乱)。しかし、この時、執権は殺されたが征夷大將軍を殺すことはなかった。注:後北条氏は北条早雲以降を言い直系ではない。

3. 足利幕府(1336年~1573年) 237年間

1338年足利尊氏が北朝の光明天皇によって征夷大將軍へ補任され、室町幕府を起こし以降1573年まで存続した。1565年松永久秀は第13代將軍足利義輝を暗殺し、義輝の従弟足利義栄を傀儡として第14代將軍に擁立した。この頃には幕府の力も地に落ちて極貧になっていた「天皇はん」の屋敷はボロボロで、酔になりかかった酒を貴族から貰って飲んでいただけの話が残っている。

室町幕府の終期については諸説ある。1573年に15代將軍足利義昭が織田信長によって京都から追放され事実上崩壊した。しかし、足利義昭は追放された後も征夷大將軍を解官された訳ではない。『公卿補任』では、天正16年(1588年)に義昭が関白豊臣秀吉に従って参内して、秀吉への忠誠を誓うまで征夷大將軍であったと記録する。

2. 戦国時代と豊臣時代 30年間

織田信長の位は従二位と高く、征夷大將軍になれたのに決してならなかった。位(くらい・正1位~従何位)と任官(関白太政大臣、征夷大將軍、土佐の守等)は別物で、信長は決して天皇の家臣にはならなかった。また歴史上、天皇家を何とかしようと考えた可能性があるのは信長のみだ。

信長を暗殺した明智光秀は三日天下と言われながらも、征夷大將軍になっている。これは光秀がもともと室町幕府の幕臣だったこともあって、朝廷とは繋がりがあったからである。信長が殺された事への慌てぶりと節操のなさが現れている。この当時幕府の援助がなくなり、貧しかった朝廷は生き残る事が最大の課題だったので、お金になるなら当時の朝廷は征夷大將軍などすぐ補任した。

頼朝が征夷大將軍となっていらい、武士は源氏姓を名乗り征夷大將軍となって幕府を起こすのが一般的であった。しかし、出自の低かった羽柴秀吉は初め平氏を名乗っていたので、突然変更して源氏を名乗って征夷大將軍になるわけにはいかなかった。困った朝廷は平氏の清盛の例にならうことにし、まずは藤原家の養子になって官位を上げ、その後源平藤橘以外の新しい姓(かばね)「豊臣」を起し関白として天下を治めることになったのである。このことで朝廷には莫大な資金が渡ったはずで、これこそ天皇家や公家が生きていくワザだったのである。だが、豊臣家は1代限りで滅亡した。

3. 徳川幕府(1603年~1867年) 264年間

徳川家康は初めから源氏と称していたので、すんなりと征夷大將軍となり徳川幕府を起こした。

であるから徳川幕府の国外への文書には全て「源の…」例えば「源の家康」と署名している。いずれの幕府も天皇を頂点とする家臣としての身分制度を維持したまま、さほど無理なく政権交代が行われてきた。そしてさすが家康、徳川時代に將軍の暗殺はなかった。

且つ、江戸幕府の終焉も大政奉還による無血開城であった。日本ではフランス革命やロシア革命の様な惨殺が行われなかったのは素晴らしいことである。最後の將軍徳川慶喜公は天寿を全うし、徳川の分家まで創設して大正2年まで生きた。また、天皇と幕府方の側近で京都守護として新撰組を組織し、最後には朝敵とされた、白虎隊で有名な会津藩主松平容保も明治以降、東照宮の宮司として明治26年まで生きながれえた。調べてみると明治維新とはまことに不思議な時代である。これが出来たのは多分天皇がいたからであろう。この2人とも最後は華族になっているが、終生幕末の戦いについて語ることはなかった。

5. 明治政府

倒幕によって維新政府が出来たが、薩長土肥中心の政府では簡単には国民が納得しないと考えた。このあたりの思想はやはり日本独特で、海外の王権篡奪とは根本的に異なっている。

明治政府は、新体制研究のために政府代表団が欧米を視察した結果、イギリスの立憲君主制に注目した。そしてこの制度を採用して天皇を神聖化し、それを政府自らの権力の源泉とすることにした。ところが聖徳太子以来、天皇家は仏教に帰依しており、それまでの全ての国の祭事は仏式で行われていた。しかしこれでは天皇が神であるのに、その上に仏が存在するのでは、「神の上に神」がいることになり、筋が通らない。そこで明治政府は勤王思想の原点に戻って国学を研究し、伊勢神宮を頂点する神道を基にして国家神道を作り上げたのである。似ているようであるが過去の民俗信仰の神道(旧神道)とは別物なので、国家神道は新神道と言われる。であるから新神道は宗教ではないとも言われるのである。そして天皇家の祭事の全てを明治以降は神式に作り直したのである。であるから現在の天皇の祭事は全て明治に作られたもので、全然古くはないのである。

この構想に元ずいて、新政府は祭政一致の古代に復する目的で、神仏分離令が布かれた。その神仏分離令の主旨は仏教の排斥ではなく、江戸時代までの神仏習合による仏教と神道の混交から両者を分離することにあった。しかし、当時の復古的機運は仏教でさえも外来の宗教として激しく排斥する廃仏毀釈へと向かった。また、キリスト教(耶蘇教)も、新政府によって引き続き厳禁された。しかし、明治4年(1871年)岩倉具視特命全権大使一行が欧米各国を歴訪した折、耶蘇教禁止令が各国の条約改正の交渉上障碍になるとの報告により、明治6年(1873年)2月24日禁制の高札を除去し、その旨を各国に通告した。明治時代には大臣は殺されたが首相の暗殺はない。

ついでに述べると、明治維新とは一般的には徳川幕府が倒れて明治政府に変わった事との認識ではあるまいか。しかしその認識は間違っている。言葉の通り明治維新とは明治政府になってからの変革を意味して、倒幕が明治維新ではない。物語としては倒幕までが面白いのであって、明治政府になってからは目立った出来事が少なく、それについて熱烈に語られることはない。がしかし、世界が驚異と認識しているのは、明治政府による大変革である。

いま現在まで見ても、白人世界以外で、あっという間に西洋を追い越して世界の一流国になったのは日本しかない。その為にアジアのみならず世界各国が、現在でも日本の明治維新についての研究を続けている。必死に隠してはいるが、中国韓国も政府内部で秘密裏にこの研究を続けている。

それほど日本の明治維新は不可思議な出来事だったのである。しかも日本を世界の一流国とした日本人自身にも、ものすごいことを達成したと言う認識が未だにない。

ここで簡単に明治維新で行われたことを列記すると、宗教改革、憲法制定、国旗と国歌の制定、中央政府と地方自治体の整備(廃藩置県)、税制改革、通貨制度改革(銀行と円の設定)、軍備、軍事制度改革、商法の整備、産業育成(機械化)、太陽暦の採用、戸籍制度整備、全てを網羅し学問全般に使える言語整備、医療制度改革、教育制度改革、通信網、郵便制度の整備(電信電話)、交通網整備(鉄道)、身分制度 断髪令 帯刀禁止令、とまことに多岐にわたり、これだけのことを同時に成し遂げられる人材が、当時の日本にいたことが真の驚異なのである。もっとも江戸時代にほとんどの基礎が出来ていたからではあるが……。

明治維新の諸改革は、それから生じた矛盾を孕みながらもおおむね成功を収め、短期間で立憲制度を確立し富国強兵を達成した。さらに日清戦争・日露戦争の勝利によって、評価は飛躍的に高まり諸外国からも感嘆・驚異の目で見られるようになった。特に当時のアジアでは明治維新を規範として改革や独立運動を行おうとする動きが盛んになる。中国の孫文も日本亡命時に『明治維新は中国革命の第一歩であり、中国革命は明治維新の第二歩である』との言葉を犬養毅へ送っている。

ただし、アジア諸国は明治維新が行政制度のみならず教育・産業・金融などを含めた社会全体の総合的な改革であったという本質への理解には至らず、政治的改革の一面だけを捉えた行動に終始したため、その後国の変革に成功していない。

6. 大正、昭和以降の政府

明治時代が終わって大正、昭和、この時代は天皇が現人神(あらひとがみ)の時代である。この間の、1921年原敬、1930年浜口雄幸、1932年犬養毅と3人も首相が暗殺されている。日本の歴史上、これほど多数のトップが暗殺されたことは過去になかった。時の首相はみな平民であり、征夷大將軍の様な貴種ではないので、お上好きの日本人に軽んじられたのだろうか。

日本人の考えでは人の延長上に神があるが、西欧では人と神は全く断絶している。ニーチェの超人思想を見ても解るが、人を超えた存在は何をしてもイイのだが、キチンとしたモラルがある。日本人の考える神は、人間のドロドロを持ったままである。しかし、西欧の神には人間の持つ汚い部分は微塵もないのである。日本のこの時代の暗殺は、人間が勝手に駄神の代理として行ったものである。

この延長で、天皇は神だからその下であれば全てが許されるとの考え方のまま、第二次大戦を起こしたのではあるまいか。これから見ると維新で創設された国家神道は完全な失敗であった。

第二次大戦突入後も内閣は何度も入れ替わった。しかし、その間暗殺はなかったのは戦争で手一杯だったからだろう。そして昭和20年の敗戦、その後の政治形態も大きく変わった。しかしながら、何と天皇制は残ったのである。その後天皇は人間宣言をして神ではなくなったが、それ以降首相の暗殺はない。現在の天皇は象徴と言う難しい存在になったが、これをどう評価すべきであろうか。

天皇制は責任が曖昧になる事の大好きな日本人にとって、これまでのところ国家の安定に寄与しているのではあるまいか。日本人は、神ではなく人であることが大好きなのである。

明治の初めからおおよそ20年間は、天皇が神である必要がさほどなかった時代である。この間日本は世界が驚く程の発展をとげた。昭和20年の敗戦後は天皇が神でなくなり、その後の日本は多大の援助や借款、及び朝鮮特需のおかげだったとは言え、すでに伝説となっている復興をした。

1945年の敗戦からわずか10年で戦前の水準まで戻し、その後も発展して現在は世界第2位の経済大国である。日本は明治維新のあと、2度目の奇跡を起こしたのである。それが天皇制のおかげなのかどうかは今後の検証が必要であるが、世界的な視点からもマエナス要素ではなさそうである。

世界第2の地位は、資源、国力ともに優れた中国にいずれは追い越されるだろうが、今後とも近隣諸国と協調してアジアの発展(当然。模型飛行機も)に努力するは当然な事ではあるまいか。

編集雑記

……平尾

* 世界中のH L Gは無制限なのに、先進国日本には制限があるという異常事態がやっとの事で解除されました。そのせいかこのところ中年(実際は老年かな…)がU H L Gをやりたいとの話が増えて大歓迎です。期待の新人ではK F Cの高田さん、中部のNさん、これ以外に野球投げからの転向組多数…。投げ方はともかく、競技が面白くなる事が素晴らしく、その結果戦闘力あるメンバーが増えて、当然競技が盛り上がります。おまけに基礎体力も増えて、健康増進、お酒もうまい。競技会に人も集まり、運営が楽になって賞品も良くなる等々、イイ事づくめです。私は現在、回転投げを猛特訓中ですが、まだあきまへん。年のせいで無理なのかなと半分あきらめの境地ですが……。

* 新進のピアニスト・辻井さんのドキュメントを見ました。彼、ナント2才でオモチャのピアノを両手で弾いたらしい。イヤ…驚き。そして4才ですでに聞ける曲を弾いたらしい、マタマタ、驚き。

モーツァルトの再来??? とにかく、ピアノを弾くのが大好きで過去にもショパン・コンクールに出たがこの時は選外だった。しかし、聴衆が絶賛し特別賞をもらった。さらにその後のコメントがイイ。

優勝者の演奏を聴いて「曲を楽譜通りに弾いて優勝するのなら、そんな賞は要らない」。イイね

* 今回、ランチーズホームページ経由でライトプレーン製作本を作る話が進んでいます。おおよその内容は、キット、中級、上級の各ライトプレーン製作、及びその道具と野原で必要な小道具の紹介、そして、LPから発展する広大な趣味の世界、世界選手権、日本選手権の紹介等々を提案しました。そしてこれら全てをカラー写真で紹介。多分130ページ程度で作り方を写真で詳細に撮って文はあまりありません。この出版社がすでに発行している本を見ると、準B5サイズのハードカバーで立派な本です。価格も2000円~2500円と高額です。必要にかられて購入するのではなく、完全なマニア本の収集用、又は飾り?本かと思います。これまで模型飛行機界では、この手の本がないので売れるかもしれません。皆さんもぜひ買って下さい。大人にもお子様にも解りやすい写真本ですから、小中学校、及び全国の図書館用として売込めばイケルのではと思います。出版の暁には、ぜひご協力を……。これに時間を取られて「デンキドリの製作」は今回お休みです。不悪……

* ドイツ・コンハンスの掛け時計が壊れて5年ほどたつが、クリスタルガラスの逸品なので捨てられずに置いてあった。ところが最近になって100円ショップで何とクオーツの機械だけ売っているのを発見し早速購入した。極力原型を保つために、まずメカに合わせて時計の針穴はドリルで大きくして、秒針は接着剤を詰めて細くし、文字盤は取付け方法を変更、他の金物は切断、改良して2時間ほどで復元に成功。やはり1000円の時計と数万の時計とは格が違うと悦に入っています。